

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900469		
法人名	株式会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 1F		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2373900469-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウィルスの感染予防対策を入居者様と一緒にやっている。
 日々の生活を入居者様主体で行われるよう心がけ支援している。
 入浴は一日おきに行い入居者様各々がゆったり気持ちよく過ごすことができ心身の清潔が保てるよう努めている。
 おとなの学校メソッドを取り入れ認知症の進行予防ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で様々な制限がある中、「利用者が主人公」の理念通り、利用者のやりたい事ができる生活を工夫して支援してきた。利用者は畑に自由に行き、気ままに畑仕事を楽しんでいる。バーベキュー大会や焼き芋大会など、庭でのイベントを増やし、利用者が閉塞感を感じないように取り組んでいる。室内で行われた「いちご狩り」もおおいに盛り上がり、楽しむことができた。
 コロナ禍で始まったオンライン面会も、これまで面会が困難だった遠方の家族からは喜びの声が聞かれた。「利用者に尊敬をもって接し、誇りをもって奉仕する」とのホームの方針は職員に浸透しており、リーダーを中心にチームワーク良く連携して利用者を支えている。ホームの目指す「穏やかな暮らし」を、訪問当日に十分感じることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営介護方針と理念について職員全員で意見交換をして共有した。毎朝、申し送りの際に運営介護方針、理念を読み上げ共有し実践につなげている。	「利用者が主人公」をホーム理念に据え、利用者のお話をよく聞き、やりたい事ができるようサポートしている。ホーム理念に沿ってユニットごとに目標を設定し、職員が理念について振り返る機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため交流は少ないが、回覧板を隣の家に届けに行っている。区長から地域行事の連絡がある。公園の清掃は職員のみ参加する。	散歩中に、畑仕事の近隣住民と距離を取って会話をしたり、回覧板を届ける際には利用者も同行したりしている。地域行事が全て中止となり交流が困難な中、工夫して交流の機会を見つけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験学習の受け入れの際に認知症について説明し支援方法を伝えている。(今年はコロナ禍のためできていない。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため会議を持つことはしていない。FAXや文書の郵送でご意見をいただいている。が内容に乏しい。	市からの通達で運営推進会議を書面開催とし、利用者の様子やホームの取り組み等を会議メンバーに送付している。区長や消防、地域包括支援センターなどから、ファックスで意見が届いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者や市役所の担当者と適宜連絡を取っている。	地域包括支援センターとの繋がりは強く、困難事例を相談したり、多くの入居者の紹介を受けている。運営推進会議には市職員と地域包括支援センター職員の両者が参加しており、ホームの現状は理解されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は離接事故防止と防犯のためやむを得ず行っている。身体拘束は行っていない。	2ヶ月ごとにユニットリーダーとサブリーダーが中心となって身体拘束適正化の委員会を開催し、定期的な研修会で職員の意識向上を図っている。状態把握が不十分だと不適切な対応に繋がりがかねないと考え、利用者寄り添う支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングの場で高齢者虐待防止について学んでいる。職員がお互いに困りごとがないか話し合い困難事例などの情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の成年後見制度を利用されていることから全体ミーティングで知識を掘り下げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学、説明を行い、ご理解いただいている。改定等の際は事前に家族会や手紙を通じて説明し不安や疑問にお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払い時やリモート面会時にご家族様から意見、要望をお聞きしている。	家族は利用料の支払いのため、毎月必ず来訪している。コロナ禍で面会を制限していたが、現在は予約制で再開している。来訪時や電話で家族意見を聞き取り、利用者からは日常的に要望を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個々と話す機会を設けている。	管理者や計画作成担当者である事務長が職員に常に声掛けし、十分なコミュニケーションをとって意見を聞き取っている。外部講師を招いて職員ミーティングを開くなど、職場環境整備にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、勤務年数、取得資格、役職に応じた給与になるようスタッフの向上心につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナ禍のため外部研修は中止になった。内部研修は毎月行われている。職員は研修で学んだことを日々のケアに取り入れて実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため交流できていない。電話等での情報交換は都度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供された書類や初回面談の情報とご本人様との関わりから得た情報から、ご本人様の状態の把握に努めている。家族にも生活履歴を確認し職員同士情報共有を行い、ご本人様の要望等に対応できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者、事務長が面談を行い、不安や要望をお聞きしている。その後思い出した情報も拾えるよう通信アプリなども利用する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスで施設サービス計画作成担当者、フロアーリーダー、職員間で話し合い施設サービス計画書に反映している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ、床の掃除機かけモップがけ、畑の草取りなどできる方はご自分から積極的にしていただいております、職員はできない部分をサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	みどりだよりやリモート面会で近況を伝えている。ご家族様は必要な衣類や食べ物、新聞紙や広告のごみ入れを作成して持ってきてくださっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前はご友人の面会があったが今年もコロナ禍のため控えていただいている。希望がある利用者様は自宅周辺にドライブへお連れしている。	通院の際に、利用者の自宅あたりに毎回立ち寄る事例がある。編み物や化粧、畑仕事など、それまでの趣味や習慣も継続できるよう支援している。誕生日などには、ビールをたしなむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カードゲームを一緒にできる時間を作り、利用者様同士の関りが増えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙などを通じて関係性が途絶えないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の化粧や畑で野菜の収穫、草取りなど、自宅でしていた習慣が続けられるよう支援している。「外へ行きたい。」と希望されたときは散歩に出かけている。	利用者に寄り添い、日常会話から思いを聞き出している。言葉の少ない利用者には問いかけをし、様子や行動からも推察している。聞き取った情報は業務日報に記録して共有し、実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供の書類やご家族様のお話からこれまでの生活歴や暮らしを把握している。ご本人様との関わりからもこれまでの暮らしをお聞きしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に、気づき、排泄、食事摂取量、水分摂取量、バイタル、ケアプランの実施状況等を記入している。変化があるときは日報へ状態を記入し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティング内でモニタリング、カンファレンスを行い、管理者、フロアリーダー、施設サービス計画担当者、職員が意見交換を行い、介護計画書を作成している。状態変化があった時にもカンファレンスを行い、介護計画書を見直している。	6ヶ月ごとと、利用者の体調変化時を介護計画の見直し機会としている。カンファレンス時に職員間で話し合い、利用者の意向を反映させて作成している。介護計画の実施状況を、毎日記録していく仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、気づき、排泄、食事摂取量、水分摂取量、バイタル、ケアプランの実施状況等を記入している。記録の情報を基にモニタリング、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため外出支援は制限があったが、室内でのいちご狩りや喫茶店の様子をSNSでご家族様にお伝えしたり、リモート面会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため制限されているが、車内から桜を見たり、混雑を避けて、つつじの花や紫陽花を見に出かけた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科往診を受けている。必要な利用者様は歯科、眼科、皮膚科、精神科の往診も受けている。利用者様、ご家族様の希望があり、耳鼻科往診も一度受けられるよう支援している。	24時間対応の協力医による月2回の訪問診療を受けている。馴染みのかかりつけ医への受診は、外部サービスを利用して通院支援している。週2回、訪問看護師による健康管理も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護ステーションより訪問がある。看取り支援の方や特変のある方を診ていただいている。その方の状態に応じた適切な対応を助言して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の相談員を通じ、情報交換を行っている。退院の時期の相談など密に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りになる前にご家族様、ご本人様に説明し意向を伺っている。看取りの段階になられたときもその都度ご家族様に説明し意向を確認している。	入居時に、常時の医療が必要でない限り、希望があれば看取りにも対応することを説明している。段階ごとに意向を確認し、協力医の意見も交えて話し合い、方針を決めている。看取りの職員研修を行い、事例ごとに振り返りの機会も設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修で学ぶ機会を持ち、実践で活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。利用者様にも参加して頂いている。地域の方にも協力していただけるようお願いしている。	年2回、火災想定避難訓練を行っている。毎回消防の立ち合いがあり、2階からの避難や、寝たきりの利用者の移動方法などの指導を受けている。地域の自主防災組織の訓練を通じて、地域の協力も得ている。	非常食は2日分程度となっている。事務長はローリングストックの必要性を感じてはいるが、具体策に繋がっていない。備蓄品の管理方法の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様をちゃん付けで呼ばないことや、居室に入室する際はノックをして許可を得てから入室するなど配慮している。	入室時のノックや、入り口のドアやカーテンを閉めるなど、利用者の尊厳を傷つけないよう配慮している。希望があれば同性介助にも対応している。理念通り、利用者がやりたいことができる生活の実現に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がやりたいことを関わりの中で聞き取り、利用者様が主体になって企画を立て実行できるよう支援することで認知症ケアにも繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を考慮して医師の指示で身体を休める時間が決まっている方は、居室で休んでいただけるよう支援している。絵を描くことが好きな方は描きたいときに描いていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされている方は、毎日化粧ができるよう準備している。手芸の時間にご自分で作ったブローチを、その日の服に合わせて、ご自分で選んでつけている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	パウンドケーキやクレープなどのおやつを職員と利用者様と一緒に作っている。食後の下膳、食器洗い、食器拭き等を利用者様と職員が一緒に行っている。	朝食はホームで調理し、それ以外は配食サービスを利用している。主食と汁物はホームで準備し、畑で収穫した野菜も使っている。利用者は朝食や汁物の下準備に加わり、配膳、食器洗いなどでも活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが悪くなっている方には刻み食やミキサー食を提供しとろみをつけている。水分をあまり摂られない方には、好みの飲み物を提供している。ご本人様の希望でおやつを少なく提供している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後緑茶を使用して口腔ケアを行っている。自己にてできる方は準備と声掛けを行い、うがいできない方は口腔ガーゼを使用して介助をしている。歯科医師の指導の下、舌ブラシを使用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄ペースを把握して、その方の排泄時間にトイレ誘導介助を行っている。下剤使用の際は一人一人の効果のある時間を把握しトイレ誘導介助をしている。	定時や様子により声掛けし、失敗しないようにトイレへ誘導している。希望者には、乳酸菌飲料を提供して排便コントロールしている。適切な支援により、入居後にリハビリパンツから布パンツへ改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を行っている。野菜ジュースやヨーグルトの提供をしている。個別でヤクルトを購入している方もいる。散歩や室内を歩くなど自然排便を促すことができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を希望されている方には同性職員が介助している。お一人ずつ好みのお湯の温度に調整している。	1日おきの入浴を基本とし、希望があれば毎日の入浴も可能である。2階ユニットに機械浴を導入し、重度化した利用者も湯船に入れるようになった。好みの湯温に配慮し、柚子湯等の季節の湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	拘縮がある方はクッションを使用している。冷え性の方は湯たんぽを使用している。就寝時間もお一人お一人の習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局と適宜連絡を取り薬について説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、モップ掛け、洗濯物畳等一人一人のできることをしていただいている。手芸、書道、おやつ作りは利用者様から「続けたい。」と要望があり定期的に行われている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、ドライブや人混みを避けて散歩や花見等に出かけている。外出支援が減っているので、テラスで過ごす時間を増やせるよう努めている。	日常的に散歩に出て、近隣の寺では本堂に上がったの参拝許可を得ている。ほぼ毎月、花の見物ツアーを実施し、人ごみが無ければ車から下車して楽しんでいる。天気の良い日はテラスでティータイムを楽しみ、外気に触れる機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持したい希望がある利用者様はご家族様の了承のもと、自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月みどりだよりでご家族様に近況を報告している。ご自分で書ける方はご自分で書いていただいている。ご友人や遠方に住むお孫様から電話があり、お話をされる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けている。季節の壁飾りを作成し掲示している。日光がまぶしいと感じる利用者様に直射日光が当たらないようカーテンを閉めるなど工夫している。	見学なし	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によってそれぞれ過ごされる場所が違うので、職員はその方が落ち着いて過ごされる場所を把握し誘導介助をしている。気の合った利用者様と過ごせるよう他フロアへお連れしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを自宅から持ってきていたでている。衣装ケースに種類別にシールをつけて物を取り出しやすくしている。	見学なし	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力が弱い方がいるので、動線がわかりやすくなるように物の配置を整理し、安全に生活できるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900469		
法人名	株式会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 2F		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	令和3年10月13日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2373900469-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴を2日に1回行い、清潔保持に努めている。 コロナ過においても季節感を感じていただくため室内の飾り付けを入居者様に行っていただいている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営介護方針と理念について職員全員で意見交換をして共有した。毎朝、申し送りの際に運営介護方針、理念を読み上げ共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や区長から地域行事の連絡がある。回覧板を隣の家に届けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの感染防止の為中止		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催はコロナウィルスの感染防止のため市町村から文書によるなどの方法で対応しているFAXや電話などでご意見をいただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者や市役所の担当者と適宜連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修で身体拘束について学んでいる。玄関の施錠は離設事故のリスクを考慮してやむを得ず行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止について学んでいる。職員全員が虐待が起こらないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修を通じて学び、職員全員が1名の利用者様が成年後見制度を利用されていることを把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学、説明を行い、ご理解いただいている。改定等の際は事前に家族会や手紙を通じて説明し不安や疑問にお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	に利用者様やご家族様から意見や要望をいただいたら個別の相談に応じ柔軟に対応できるようにしている。欲しい物を通販で購入する など		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行い、また気になることがあれば随時意見を聞けるよう話っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、勤務年数、取得資格、役職に応じた給与になるようにしている。労働時間も相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナ禍のため外部研修は減っているが、内部研修は毎月行われている。職員は研修で学んだことを日々のケアに取り入れて実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流は予定しているが行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供された書類や初回面談の情報とご本人様との関わりから得た情報から、ご本人様の状態の把握に努めている。職員同士情報共有を行い、ご本人様の要望等に対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者、事務長が面談を行い、不安や要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスで施設サービス計画作成担当者、フロアーリーダー、職員間で話し合い施設サービス計画書に反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもって生活していただけるよう、掃除、食器拭き、草取り等できることをしていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	みどりだよりやリモート面会で近況を伝えている。ご家族様は必要な衣類や食べ物、新聞紙や広告のごみ入れを作成して持ってきてくださっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前はご友人の面会があったが今年はコロナ禍のため控えていただいている。電話ができる方は電話でお話をされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おかし作りや歌、壁飾り作成等を一緒に行い関わりあえる環境を作り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や電話などを通じて関係性が途絶えないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日コミュニケーションを図り暮らしの趣向を把握し意思疎通困難な方も健康状態に配慮したケアを行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のご家族様との面談や生活歴や病歴の書類を通して暮らし方の経緯を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に、気づき、排泄、食事摂取量、水分摂取量、バイタル、ケアプランの実施状況等を記入している。変化があるときは日報へ状態を記入し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティング内でモニタリング、カンファレンスを行い、管理者、フロアリーダー、施設サービス計画担当者、職員が意見交換を行い、介護計画書を作成している。状態変化があった時にもカンファレンスを行い、介護計画書を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランの実施状況等を記入している。記録の情報を基にモニタリング、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため対面での面会は控えていただいている。リモートや距離を置いた形での面会は行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため制限されているが、車内から桜やあじさいを見に出かけた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科往診を受けている。必要な利用者様は歯科、眼科、皮膚科、精神科の往診も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護ステーションより訪問がある。看取り支援の方や特変のある方を診ていただいている。その方の状態に応じた適切な対応を助言して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の相談員を通じ、情報交換を行っている。早期の退院退院となるよう密に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りになる前にご家族様、ご本人様に説明し意向を伺っている。看取りの段階になられたときもその都度ご家族様に説明し意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で吐しゃ物の処理方法や急変時の対応について学習し身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員指導のもと利用者様とスタッフ一緒に避難訓練を行い対応を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際の言葉遣いに気を付けている。居室に入室する際は必ずノックをして、プライバシーに考慮している。居室には要望により簡易な鍵をつけることもある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と一緒に企画を書いてお菓子作り等を行っており自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出は控え気味で近所への散歩が多い。室内で体操や飾り物を作っていたり過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に2か月に1回ヘアカット、髪染めをしていただいている。入浴時専用のシャンプーを使われる方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食がパンの日があるが好まない方は米飯で対応する。味付けは好みに合わせて行っている。食器拭きは毎食後していただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが悪くなっている方には刻み食やミキサー食を提供している。水分をあまり摂られない方には、好みの飲み物を提供している。食欲が落ちている方はパン等好きなものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後緑茶を使用して口腔ケアを行っている。自己にてできる方は準備と声掛けを行い、うがいができない方は口腔ガーゼを使用して介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔や尿量を把握してトイレへの声掛けの回数を増やす。トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を行って頂き野菜ジュースやヨーグルトなど便通に良いものを提供しているヤクルトを個人で飲まれている方もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴時間を設け時間や湯の温度をお好みに合わせて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷え性の方は湯たんぽを使用している。足のむくみを予防するため挙上して休んでもらう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局と適宜連絡を取り薬について副作用等説明を受けている。スタッフ各自が個人記録の処方箋を都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菓子や化粧品などをご自分で購入されたりご家族に差し入れていただいている。手芸やお菓子作り季節のイベント(もちつき、やきいも)を行い楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、散歩にとどまることが多いがドライブや人混みを避けて散歩や花見等に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理したい希望のある方はできるだけ居室で保管されている。通販で欲しいものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月みどりだよりでご家族様に近況を報告している。ご自分で書ける方はご自分で書いていただいている。ご友人や遠方に住むお孫様から電話があり、お話をされる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に書道の作品を掲示したり季節の飾り物や貼り絵を壁に飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になって過ごす方や、テレビが観える場所が好きな方、気の合う方と話をしながら過ごす方等、同じ時間帯で思い思いの場所で過ごせるよう、テーブルや椅子が設置されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持ってこられた寝具やタンスを使われている。写真を飾ったりフォトフレームを使われている方もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険がある利用者の居室にはセンサーを設置している。共同生活に不安がある方の居室には簡易的な鍵をつけ安心していただいている		